



2021年3月 VOL.59

いつでも どこでも だれでもできる 平和教育の実践を

～ 争いごとを平和的に解決する力をもった子どもを育てるために～



静岡県教職員組合立教育研究所
国際連帯と平和教育研究委員会

「国際連帯と平和教育研究委員会」では、ものごとを多面的に捉え平和的に解決する力を子どもたちに育てるために、様々な教科領域において平和教育の視点を取り入れた実践を行い、所員（学校の教員）の報告をもとに研究をすすめています。

2020年度の研究実践の中から、日本と中国や韓国との関係について取り上げた実践を紹介します。


中国に対する意識改革 小学校4年 道徳

富士市立岩松北小学校 小林 健二

実践内容

- (1) 4年生3学級（102人）を対象にアンケートと授業を行う。
- (2) 授業では以下の2つの内容を扱う。
 - ① 中国について知る（概要・日本とのつながり）
 - ② 中国文化体験

1. 中国について



国名：中華人民共和国 国家主席：習近平
 首都：北京
 人口：13億8千万人以上（世界1位）←日本の約10倍
 国土：9,634,057km²（世界3位）←日本の約25倍
 通貨：元 1元≒17円
 民族：56の民族 最大の民族は漢民族（全体の92%）
 少数民族（満族、ウイグル族、回族、チベット族、ミャオ族、ナシ族、イ族など）

端午節（こどもの日）

中国から日本に伝わったもの





香囊
 賽龙舟
 粽子的形状

動画視聴&体験

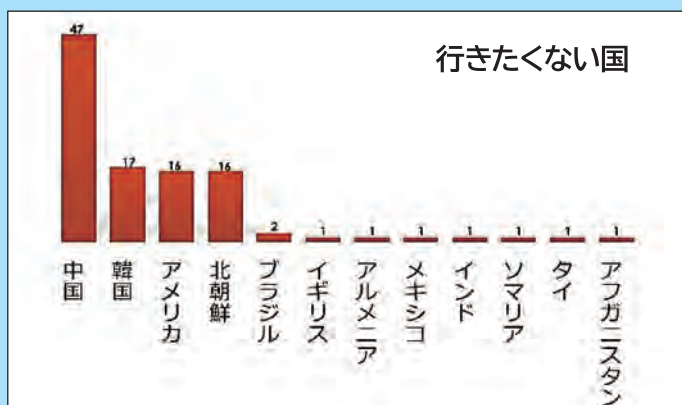
中国雑技、毬子(ジェンズ)

中国の世界遺産




北京故宮

<事前アンケート結果>



<事後アンケート結果>

③前よりも中国に行ってみたくなりましたが。

行きたくなった	変わらない	前よりも行きたくなくなった
84	15	2

<行きたくなった理由>

- ・中国の景がすごくて見たくなくなった。
- ・世界遺産を見てみたい。
- ・中国で、中華料理を食べてみたいから。
- ・ドラゴンボートに乗ってみたい。
- ・中国がいい場所だと知ったから。
- ・もっと中国のことを知りたいと思ったから。
- ・自分が知らないことがたくさんあって、知りたいと思った。
- ・きれいな建物が見たい。
- ・世界一周旅行で一番最初に中国に行きたい。


<変わらない理由>

- ・まだ少ししか知らないから。
- ・反日運動やコロナが心配だから。
- ・ゴミが多いのではないかと心配

- ・日本の報道や、インターネット上に出てくる「中国」についてのトピックスは、否定的であったり、マイナスイメージを与えたりするようなものが多いのだと、改めて感じた。
- ・「中国に行きたくなった」という子どもが予想以上に多く、短い時間でも心境の変化が出たという結果に、写真や、動画、体験が子どもたちに与える影響が大きいことを感じた。
- ・大人が子どもたちに与える情報は、偏ったものであってはならない。子どもたちが、公平に判断できるよう、与える情報については十分な検討が必要である。

<本時の目標>

資料を読み取り、日中韓の相手国に対する感情差の原因を考える活動を通して、日中韓関係の問題を解決していくためには、互いの文化や習慣を尊重していくことが大切であることに気付き、そのための調査の視点を見出している。

学習活動		・手立て *留意点 [評価]
みつける	<p>○前時の復習 (日中韓の外交問題と日本の対中韓感情の低さ)</p> <p>中・韓の領土侵害などのせいで、日本人は中国・韓国が好きではない。</p> <p>日中韓の関係が、今後良くなっていく可能性はないのかな？</p>	<p>*領土問題等を改めて確認することで、中国や韓国が原因で日本の対中韓感情が低いことを確認する。</p>
焦点化する	<p>このままで可能性がないことはないと思う。日本、中国、韓国の偉い人たちがもっと問題について話し合えばいい。でも、これまでも話し合ってきたんだよな…そんな簡単ではないのかな。</p> <p>○資料I「日中韓の感情世論調査」を提示</p>	<p>・世論調査の折れ線グラフは、日本と中韓を順番に提示し、差を強調する。</p> <p>*資料を読み取る時間を設ける。</p>
追求する	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>・日本の中国や韓国に対する良い印象は低いままで上がっていない。 ・中国も韓国も、日本に対する印象は、良い方へ上がっている。</p> <p>なぜ、中国や韓国の日本に対する印象は良くなってきているのだろう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>日本はなぜ相手の印象が良くならないのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領土を侵されているから ・反日運動を起こすから。 ・戦争責任をいつまでも主張してくるから。 ・日本に文句ばかり言うから。 </div> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・若者が日本のアニメや漫画、ゲームなどが好きだから。 ・日本の家電が魅力的じゃないかな。 ・日本の食文化を気に入っているから。 ・富士山や京都など、日本には、魅力的な観光地がたくさんあるから。 </div> </div> <p>中国や韓国の若者は、日本の良さを理解している人も多い。それに対し、日本人は、まだ中国や韓国の悪い部分を気にしている人が多いんじゃないかな。</p> <p>だから、まずは私たちが中国や韓国の文化や習慣の魅力を知り、それを多くの人に伝えていく。そうすれば、自分たちでも中・韓の関係をよくしていけるのではないかな。</p>	<p>*資料の見える部分だけではなく、見えない部分(今後の予測)を児童から引き出したい。</p> <p>・日中は2013年、日韓は2017年以降の中韓の上昇に注目させ、そこに対する疑問を引き出す。</p> <p>*学習問題提示後は、以下の資料を提示する。 補資Ⅱ「訪日前に期待していたこと」 補資Ⅲ「訪日外国人国別構成比の変化」 補資Ⅳ「世代別対日印象(中国)」 *日本の低さに注目した場合でも、中韓を学習問題としたい。 *児童から疑問が出ない場合は、疑問に思うことはないかと尋ね、立ち止まらせる。</p> <p>・調査学習の視点を明確にし、次時で主体的に調査学習にとりくめるようにする。</p>
おぼえる・しなぶる	<p>中国や韓国のどんなところを発信していけばいいかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史のある伝統文化 ・衣食住の様子 ・世界を代表する生産品 ・既に日本人が日本でも体験している中国や韓国の文化 ・今中国や韓国で流行している文化 ・魅力的な観光地 	<p>日中韓関係の問題を解決していくためには互いの文化や習慣を尊重していくことが大切であることに気付き、そのための調査の視点を見いだしている。【思考・判断・表現】(活動、発言、ノート)</p>

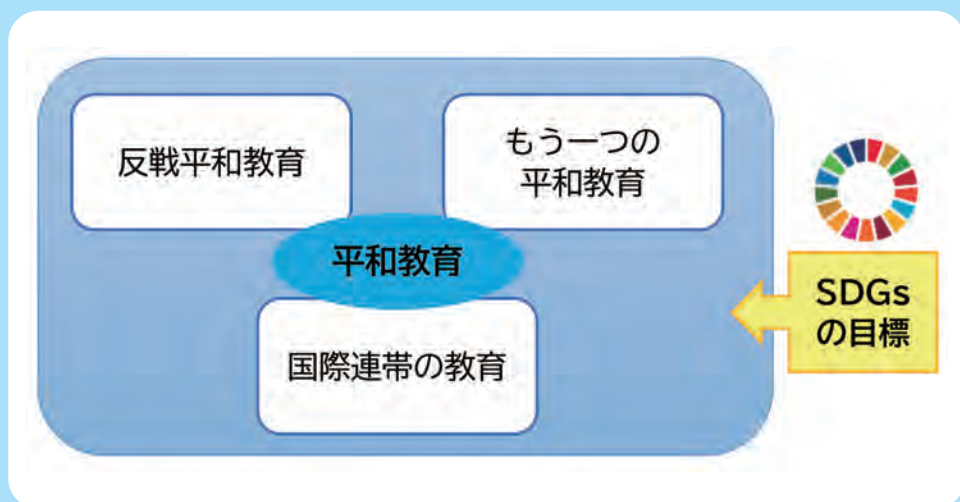
子どもたちは、資料から世代によって日本に対する印象が異なっていることに気付き、自分たち若い世代が、中国や韓国の良さを伝えていくことで、国民の力で日中韓問題を改善していけるのではないかと考えた。

静教組立教育研究所が考える「国際連帯の教育と平和教育」

静教組立教育研究所では「いつでも、どこでも、だれでもできる平和教育」を平和教育の柱として研究活動をすすめて、実践を積み重ねています。平和教育を広く捉え、**反戦平和教育**だけでなく、**争いごとを平和的に解決する力をもった子どもたちを育てる教育（もう一つの平和教育）**も平和教育と考えています。

また、**一国だけでは解決できない地球規模の問題（地球的問題群）**について考え、**その解決のために行動する力を涵養する教育**を国際連帯の教育と再定義しました。地球的問題群を学習することは、戦争の原因を考え、その解決策を探る反戦平和教育に結びつくとともに、相手の立場にたって考えることが、平和的に問題を解決する力の育成につながります。そのため、戦争をなくすためには、地球的問題群を解決することが必要となります。

「誰一人取り残さない」持続可能な世界を創るための目標であり、地球規模の問題の解決をめざすものとして、**SDGs***があります。SDGsの視点を加えることで、国際連帯の教育と平和教育の幅を広げることが期待されます。 ※2015年9月の国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標



国際連帯と平和教育研究委員会 (2020年度)

共同研究者

伊藤 恭彦
(名古屋市立大学教授)
加治 宏基
(愛知大学准教授)

所 員

梶山 高秀 (静清教組)
寺田 祐基 (賀茂支部)
斉藤 尊 (東豆支部)
神田 美里 (沼津支部)
小林 健二 (富士支部)
富田 由美 (榛原支部)
安西 佐織 (磐周支部)

いつでも どこでも だれでもできる平和教育の実践を
～争いごとを平和的に解決する力をもった子どもを育てるために～

編集・発行／静岡県教職員組合立教育研究所「国際連帯と平和教育研究委員会」

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1番12号 静岡県教育会館

発行者／教育研究所運営委員長 赤池浩章

発行日／2021年3月

静岡県教育事業団体連絡会
教育と生活をサポート



一般財団法人 静岡県教職員互助組合



STC 静岡県教職員生活協同組合



STC 静岡県学校生活協同組合連合会



一般社団法人 静岡県出版文化会



公益財団法人 日本教育公務員弘済会静岡支部



株式会社 静岡教育出版社